



教職員支援グループ（教育情報）より

「情報モラル」は線でつないだ指導を

裏アカウントによるトラブル…

携帯電話やスマートフォンを持つ小学4年生から高校生までを対象にした調査（平成30年2月）で、ツイッターなどの会員制交流サイト（SNS）上に、友だちや家族に存在を教えない「裏アカウント」を持っている人が40%を占め、女子高生に限ると69%に上ることが分かりました。（フィルタリングソフト会社デジタルアーツ調べ）

さらに、裏アカウントを使ってネット上の友達と実際に会ったり、会ってみたいと考えたりする児童生徒の割合は52%に上ります。裏アカウントは使い次第でトラブルや犯罪に巻き込まれる恐れもあります。

このような現実もあり、先日の情報教育主任研修会では、「裏アカウント」によるトラブル事例を動画で視聴し、その原因や、トラブルにならないためにはどうすればよいのかを話し合う模擬授業形式の研修を行いました。動画の概要は、以下の通りです。

悠美は、クラスメイトの恋バナをSNSのアプリ「Wara♪tter」の「裏アカ」（鍵付）に投稿。限られた人しか見られないはずなのに、それがスクリーンショットされて…



情報モラル教育は、「ネットを使うときの心の面」と「ネットを使うときの知識の面」の両面を育てていかなければなりません。そのためには、具体的な事例をもとに、トラブルの原因や解決策について、子どもたち自身に考えさせていくことが大切です。

この動画が入ったDVDは情報教育主任の先生を通じて各学校へ配付しています。また、指導案やワークシートは、ネット上にもあげられています。児童生徒の実態に合わせてぜひご活用ください。

情報モラルウィークが始まります！

今年度も情報モラルウィークが始まります。動画を視聴し、情報モラルについて考える時間を取っていただいています。この取組も、3年目となり、児童生徒の中にも定着しつつあるのではないのでしょうか。そんな時期だからこそ、情報モラルウィークで行われた指導を点で終わらせずに、線でつないだ取組を行っていききたいものです。

東小インターネット宣言 成果の会



計画委員会を中心に、家庭の約束やネットやゲームの使い方について振り返りました。

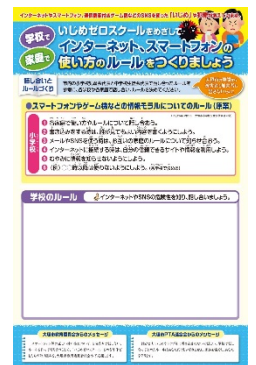
【東小 HP 掲示板より】

左の写真は、東小学校の昨年度の取組です。情報モラルウィークをきっかけとして、児童会を中心として「東小インターネット宣言」をつくりました。そして決めた約束が守られているかどうか振り返る集会を行いました。情報モラル

ウィークで高めた情報モラルへの意識を継続し、全校での取組につないでいきました。

また、4年前に各学校で作られた「情報モラルについてのルール」を見直してみるというのもよいと思います。そして、学校のルールを受けて一人一人の情報モラルのルールを決めることで子どもたち一人一人の意識がさらに高まっていくのではないのでしょうか。

各学校の工夫した取組で大きなトラブルを未然に防ぎ、子どもたちを「ネット社会の加害者・被害者にならない・させない」ようにしていきたいものです。



【学校のルール】

児童生徒支援グループ（少年支援）より

児童生徒を認め励ます メッセージをお渡しします！

学校支援訪問をしていますと、児童生徒のすばらしい姿を目の当たりにすることがあります。思わず「すごいなあ！」「がんばっているなあ！」と声が出てしまうこともしばしばありますが、先日も、ある小学校を訪問していて次のようなことがありました。

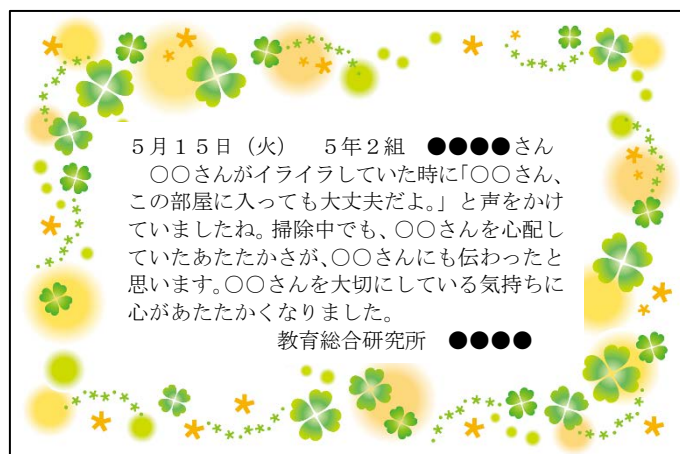
掃除の時間に、自分の思い通りにいなくてイライラしている男の子がいました。大声で叫んだり、物に当たったりしていたので、学校から飛び出してしまわないか心配になり、その子について行きました。

すると、掃除をしていた高学年の女の子が「〇〇さん、今その部屋に入っても大丈夫だよ。」と声をかけていました。感情的になっていた男の子は、訪問者の声かけには応えてくれなかったのに、その女の子の一言で素直にその広い部屋に入って座り込み、どンドン落ち着きを取り戻して行きました。

掃除をしていた女の子は、きっとその男の子のことがよく分かっていたのでしょう。そしてその子の気持ちを思いやって声をかけ、そのあたたかさが男の子を素直にさせたのだと感じられました。

その声をかけてくれた女の子に、訪問者は「ありがとう」の一言しか言えませんでした。声をかけてくれたことに感動したのですが、十分な思いを伝えられず、残念でなりません。

そこで、少年支援としては、このような機会を取り上げて、以下のようなメッセージカードを書いて渡すことにしました。



5月15日（火） 5年2組 ●●●●さん
 〇〇さんがイライラしていた時に「〇〇さん、この部屋に入っても大丈夫だよ。」と声をかけていましたね。掃除中でも、〇〇さんを心配していたあたたかさが、〇〇さんにも伝わったと思います。〇〇さんを大切にしている気持ちに心があたたかくなりました。
 教育総合研究所 ●●●●

少年支援は、要援助児童生徒だけでなく、そのまわりで頑張っている児童生徒のすばらしさを認め励ますことも大切にしていきます。

また、空き教室を見ますと、児童生徒の様子が伝わってきます。全員が制服をたたんで机の上に置いてある教室、机と椅子が縦横そろっている教室、廊下にかけてあるヘルメットの向きがそろっている学級などを見ると、「一人ひとりがそろえようとする学級」「全員でそろえるために助け合う学級」だと分かります。そんな学級も認め励ましていきます。

あたたかく見守る姿勢が、児童生徒の自己有用感、自己肯定感を高めていくと考え、積極的に児童生徒を認め励ますメッセージをお伝えしていきます。

大垣市少年支援員の活動 が始まります！

地域における青少年の健全育成を目指した大垣市少年支援員の活動が、今年も5月18日の第1回研修会を手始めに各校区でスタートしました。今年度の少年支援員は、各校区より選出された地域の方々や学校関係者、PTA役員、警察関係者など、総勢166名で構成され、次のような活動を展開していきます。

【大垣市少年支援員の4つの活動】

- イベントや祭りでの街頭補導
- 各校区でのパトロール活動
- 関係団体との協働による地域環境浄化活動
- マイスクール支援ネット会議

大垣市の児童生徒の健全な育成のために、地域、学校、家庭が一体となって活動します。これまでの大垣市少年支援員の活動が実を結び、近年、少年非行の件数は減少しています。これからも、これまで以上にあたたかく児童生徒を見守っていきます。



《教育総合研究所にかかわる、6・7月の行事》

6月	6日（水）	小学校教科別研究会
	8日（金）	教育実践研究論文申請者研修会
	10日（日）	かがやき教育週間（～17日）
	12日（火）	人権・同和教育教員研修会
	21日（木）	各種教育研究会
	28日（木）	中学校教科別研究会

※これから研修各校で実施（6月～7月）

7月	23日（月）	夏期研	Q-U調査結果活用講座① （K-13法）
	26日（木）	夏期研	「ふるさと大垣科」 ふるさと講座
	27日（金）	夏期研	Q-U調査結果活用講座② （SST）
	31日（火）	教職員研修会	

※現職教育情報教育サポート各校で実施（6月～8月）